

実践報告 豊平区 羊丘中学校

1 はじめに

羊丘中学校では校区の三つの小学校と年間を通じて、以下の交流を行ってきた。

- ① 6月には旧6年生の担任を中学校に招き、中学1年生の授業を参観する。その後、中学1年担任との懇談をし、生徒の指導に資するような情報交流を行う。
- ② 9月には「音楽のつどい」を実施し、中学校吹奏楽部と小学校スクールバンドとの交流を行う。
- ③ 1月には小学校6年生が中学校を訪問し、中学1年生の授業見学を行う。その後、中学校の先生から生活や学習についての説明を聞く。
- ④ 3月には中学校3年生の担任が小学校を訪問して、6年生の授業を参観し、その後、児童の情報交流を行う。

今年度、小中連携の取組を行うに当たって、小中学校担当教師で打合せを行った際に、従来の教職員中心の交流に加えて児童生徒の直接の交流が必要という意見が出され、昨年度までの小中連携に加え新たに、「小学生の部活動体験」「小学生による中学校の合唱発表会見学」を行うことになった。以下、中学校の立場として小中連携の取組と成果・課題などについて記したい。

2 実践研究の内容

- ・ 8月 … 「小学生の部活動体験」 (羊丘中学校)
- ・ 11月 … 「小学生の合唱発表会見学」 (羊丘中学校)



3 実践の具体

(1) 部活動体験

小学校の2学期始業式は8月22日(月)であった。一方、中学校の2学期始業式は8月25日(木)であった。小学校と中学校のタイムラグを利用して、8月23日(火)は福住小学校、8月24日(水)は南月寒小学校の6年生が本校の部活動の体験を行った。当日は9時30分から11時30分まで、体育系8部活、文化系4部活の中から、小学生がグループごとに複数の部活動に参加した。先輩として小学生を教えたり、指示を出したりした中学生の声を以下に掲載する。

●小学生に伝えたいこと

- ・ 部活の楽しさ
- ・ たくさん仲間ができること
- ・ 先輩との関わりや礼儀
- ・ 部活のやりがい
- ・ 中体連や各種大会に向けて頑張っていること
- ・ 部活の雰囲気や楽しさ
- ・ 生活面にもためになるということ
- ・ 楽しさの中でも集中して取り組む姿を見せたいこと



多くの生徒が部活の楽しさや、やりがいなど、たくさんのことを小学生に伝えたいということが分かった。また、この行事を中学生として楽しみにしている様子も伺える。

●部活見学と体験を終えて

- ・小学生が真剣に練習を見てくれたのでうれしかったです。
- ・部活のよさをしっかり伝えることができたと思います。
- ・できるなら来年もやってほしいです。
- ・みんなしっかりと話を聞いてくれてよかった。
- ・笑顔が見られたので良かった。
- ・部活の楽しさ、面白さを知ってもらえたと思う。
- ・たくさんの魅力を伝えられてよかった。
- ・部活見学と体験を通して、小学生と交流ができたし、部活がどのようなものかを知ってもらえたと思う。
- ・優しく楽しく部活動体験ができたのでよかった。
- ・よいイメージをもってくれたと思う。
- ・教えると言うことがどれほど大変なのかが分かった。



そして、部活動体験を通じて、小学生に多くのことを伝えることができ、興味関心をもってもらったことに達成感を感じた様子がわかった。また、一方で、実際に教えることの難しさを実感した生徒もいたようである。

(2) 合唱発表会見学

本校で11月2日(水)に実施した合唱発表会を南月寒小学校の6年生が見学した。当日は、9時30分から10時20分にかけて中学1年生の7クラスの自由曲と特別支援学級の自由曲を聴いた。先輩として小学生を前に曲を演奏した中学1年生の声を以下に掲載する。

●小学生に伝えたいこと

- ・練習の成果(表現、声量)を感じ取ってほしい。
- ・小学生にはない姿勢、目線、歌い方。
- ・歌詞に込められた意味を歌、表情、動きで伝えたい。
- ・強弱を付けて伸ばす部分などの表現力。
- ・中学生はすごいぞと思わせたい。



●小学生の前で歌って

- ・真剣な態度で聴いてくれて、とても歌いやすかった。
- ・曲の工夫は小学生にも伝わったと思う。
- ・先輩として真剣に取り組んでいるところを見せられたと思う。
- ・小学生とはまた違う歌詞に込められたメッセージを伝えられたと思う。

多くの生徒が小学生の前で歌うことで、先輩としても達成感を味わうことができていると思われる。また、小学生は真剣な眼差しで、1曲1曲に集中して目と耳を傾けていた。

4 小中連携の充実を図る校内体制の在り方(平成28年度テーマ)について

- ・教務担当者が校内では連絡調整役になり、校務分掌・部活動指導者会・管理職とその都度打ち合わせをもった。1学期の早い段階から、見通しをもって計画することが大切である。
- ・小中学校の教務担当者が、実務者として連絡相談を密にしたことが有益であった。管理職同士の連携の大切さも実感したが、実際に計画・実行の中心者である実務者同士の連携は欠かせないものだった。
- ・夏季休業中の事業については、教職員の理解と協力も不可欠である。職員会議などで小中連携の意義を粘り強く伝えることが重要であった。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・小中連携において、小中学校の実務者同士の連携が大きなポイントとなる。電話だけではなく、お互いに顔を合わせての打合せ・相談が連携を進めていく上で、非常に有効であった。
- ・交流の事前事後に、生徒のアンケートを取り生徒の変容を確認し、今後（次年度）の交流に生かしていくことができた。
- ・小学生が羊丘中学校の「部活動体験」に参加する際に、中学生が小学生に教えることを通じてお互いの交流を深め、中学生と小学生の相互理解を育むことができた。
- ・「合唱発表会見学」の際に、小学生の前で演奏することで、中学生としての自覚を深め、よりよい合唱を発表する態度を育てることができた。

(2) 課題

- ・各学校の行事の調整が不十分で、「合唱発表会見学」においては、1つの小学校の見学にとどまってしまう。次年度は、各学校の行事の調整をはじめとして、年度初めでの計画が必要である。
- ・限られた時間であったため、児童生徒の交流の深まりが十分とはいえない場面もあった。今後はお互いの感想文の交流など、当日の交流以外の交流が考えられる。

(3) 今後の「小中連携」の実践に向けて

- ・交流に当たっては、小中の実務者で今までの連携の課題を確認し、出来ることからスタートすることが大切である。小中の教師が顔見知りになって、子どもの様子を共有することが理想である。
- ・行事への参加などの交流は、改善を重ねながら次年度も継続して取り組むことが可能である。

実践報告 豊平区 南月寒小学校

1 はじめに

本校ではこれまで羊丘中学校との連携において、6月に行う小学校教員の中学校授業参観及び生徒情報交流、1月に行う6年生児童の中学校体験入学、3月に行う中学校教員の小学校授業参観及び児童情報交流と、教員間における授業参観や情報交流を主で行ってきた。

今年度は、従来の教員間の情報交流に加え「中学校の行事や活動を通じた児童・生徒間の実際の交流活動」を計画・実践し、小学校・中学校双方の児童・生徒の育ちを基にその効果と課題を明らかにしていくことを確認した。また、今年度のテーマである「小中連携の充実を図る校内体制の在り方」についても、実践を進める中で具体化できるよう確認した。

2 実践研究の内容

- ・ 6月 …中学校授業参観（小学校教員）・生徒情報交流〔連携〕（羊丘中学校）
- ・ 8月 …6年生「羊丘中学校部活動体験」〔交流〕（羊丘中学校）
- ・ 11月 …6年生「羊丘中学校合唱発表会」見学〔交流〕（羊丘中学校）
- ・ 2月 …6年生「羊丘中学校授業参観」〔交流〕（羊丘中学校）
- ・ 3月 …小学校授業参観（中学校教員）・児童情報交流〔連携〕（南月寒小学校）

3 実践の具体

(1) 6年生「羊丘中学校部活動体験」〔交流〕

事前に6年生に対して行ったアンケートでは、全体の52%が「中学校への進学がとても楽しみ」と回答しているが、逆に15%が何らかの不安を感じていることも分かった。また、「中学校で楽しみなこと」として「部活動」を挙げた児童が60%と興味・関心が高いことが分かった。このような実態を踏まえ、中学校の部活動を体験したり、中学生と実際にふれあったりすることを通して、中学校に対する不安を軽減し、それを期待感につなげていくことをねらい、実践することとした。

交流は、中学校が夏休み中の8月24日に実施し、小グループで各部活動の体験をさせていただいた。子どもたちは、指導担当の先生や、先輩中学生の説明を真剣に聞き、優しく教えてくれる中学生と一緒に活動しながら、楽しく参加することができていた。実施後のアンケートでは、「私もあんな風になりたいと憧れが強くなりました。」「少し不安だったけれど、優しい先輩ばかりで安心しました。」

「早く中学生になりたいと思いました。」等の感想が多く見られた。また、72%の児童が「部活動体験を通して中学校進学に対する期待が高まった」と回答していた。中学生と実際に話をしたり、一緒に活動したりできたことが、子どもたちの進学に対する不安を払拭し期待感を高め、「自分のなりたい中学生像」をイメージすることにもつながったのではないかと考える。



(2) 6年生「羊丘中学校合唱発表会」見学〔交流〕

11月2日に、羊丘中学校で開催される「合唱発表会」に参加させていただき、中学生の歌声を少しでも小学生の歌声に還元できるように目的意識をもって実践にあたった。また、子どもたちが中学校の全校行事を初めて体験する機会にもなり、中学校生活のイメージをもつことにもつながると考えた。

子どもたちは、1年生各クラスの合唱発表が始まると、その歌声に聴き入るとともに、会の進行や合唱の指揮も、中学生の手で行われていることに驚いた様子だった。

実施後のアンケートから、「中学校に入った時、こんなにきれいで美しい合唱ができるように頑張ろうと思った。」「中学生になる前に、聞く態度や合唱に向けての全力さを改善して学習発表会の練習に生かしたい。」と、進学に向けた目標や今後の具体的な改善点など、中学校進学を見据えた自分の目標や行動に目を向ける子どもが増えてきていることが分かった。

(3) 6年生「羊丘中学校授業参観」〔交流〕

2月1日に実施した「羊丘中学校授業参観」は、小学生が中学生の日常の生活や学習にふれる機会であり、自分の中学校生活や学習に対する具体的な目標や心構え、意欲をもつことにつながるよう留意して実践した。中学校では、1年生の授業を自由に参観することができるようにし、小学生たちは、自分の興味のある教科の授業を熱心に参観していた。小学生からは、「想像していたより授業が楽しくて、中学校の勉強のイメージが変わりました。不安や緊張もあるけれど『楽しみ』という感情が湧きました。」「先生が教科ごとに替わるので不安もあるけれど、先生方との交流も深めることができるかなと思いました。」などという感想が聞かれ、実際の学習場面を見たことで「楽しみ」と「安心」を感じた児童も多いことが分かった。これらのことから、漠然としたものであった中学校進学を「自分ごと」として捉え始めるよききっかけとなった取組であると考えます。



4 小中連携の充実を図る校内体制の在り方（平成28年度テーマ）について

- ・年度当初に連携担当者が、担当者会議等で子どもの実態や連携における活動のねらい・内容を十分に協議・共通理解し、日程の調整等を図る。
- ・各校においては、連携担当者が窓口となって、管理職や関係教職員（6年担任等）にそのねらいや活動内容を伝える。6年担任は小中連携の内容を、年間を見通しながら学年経営や総合的な学習の時間の指導計画に位置付け、子どもの指導と評価にあたる。
- ・連携担当者は、職員会議や研修会等で小中連携の目的や内容を全教職員に伝え、共有化を図る。
- ・実施前後における子どもの意識や育ち（評価）を連携担当者が吸い上げ、各校の連携担当者間で情報を共有し合う。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・活動のねらいや交流内容を、子どもの実態や中学校進学に対する意識に即して段階的に発展していくように計画・実践したことで、自分のなりたい中学生像を強くイメージし、具体的な目標をもったり、小学校生活を見直したりすることにつながったと考える。

- ・連携担当者が活動のねらいや内容を具体的に共有し、校内体制の中でその効果について情報提供することで、小中連携の大切さや継続していく意義について共通理解することができた。

(2) 課題

- ・年度が始まってしまってからでは、各校の行事や交流活動の日程を調整することが難しく、実践内容において不十分になってしまうところもあった。各校の年間行事が概ね固まる2月ごろに連携担当者間で次年度の日程を調整し、見通しをもって連携についての計画を立てることが大切である。また、児童・生徒も年間を通して、どのような活動があるのか、どんな目的で行うのかを見通して活動に臨むことで、より目的意識や相手意識をもった充実した活動になると考える。

(3) 今後の「小中連携」の実践に向けて

- ・児童生徒の交流については教育課程への位置付けや校内体制が整いつつあるので、今後はさらに子どもの育ちや活動の改善につながるよう、小中の教職員間における情報共有の場を設定し、子どもの育ちを検証していくことが必要である。
- ・今後、小中連携の取組を継続していく中で、子ども自身の考えや発想を生かした主体的な活動にしていくことで、より目的意識をもった活動になると考える。

実践報告 豊平区 福住小学校

1 はじめに

これまで、授業参観交流、音楽のつどいへの参加、部活動見学・体験、中学校への学校訪問などに取り組んできた。入学前に中学校の様子を知ること、児童にとっては中学校生活への不安の軽減や期待感の高まりにつながっている。

2 実践研究の内容

- ・ 8月 …部活動見学会 (西岡北中学校、羊丘中学校)
- ・ 11月 …合唱発表会見学 (羊丘中学校)
- ・ 2月 …中学校訪問 (西岡北中学校、羊丘中学校)
- ・ 3月 …児童理解のための情報交流 (羊丘中学校)

3 実践の具体

(1) 部活動見学会

西岡北中学校は8月1日、羊丘中学校は8月23日に実施した。限られた時間の中で、グループに分かれていろいろな部活を見学したり体験したりする活動を通して、部活動をはじめ中学校生活全般へ期待感をもつことができた。



(2) 合唱発表会見学

11月2日に予定されていたが、11月4日に本校の「開校40周年記念 第6回教育実践発表会」があり、残念ながら参加することができなかった。



(3) 中学校訪問

2月1日、校区ごとに羊丘中学校と西岡北中学校に分かれて訪問した。はじめに中学校生活に関するオリエンテーションを受けてから、1年生の各教室を訪問し、授業の様子を参観させていただいた。皆興味津々で先輩たちの姿を見つめていた。



(4) 児童理解のための情報交流

3月に実施。

4 小中連携の充実を図る校内体制の在り方 (平成 28 年度テーマ) について

- ・実務的なことは担当者が行うが、小中間の日程調整や確認事項、問題が発生した際の対応等は教頭が中心になって行う。
- ・担当者は常に担任との連携を密にし、日程調整や諸連絡・確認事項等に漏れないように留意する。ま

た、各活動の意義について担任を通じて児童に十分理解させる。

- ・中学校との連携の在り方や一つ一つの活動に対しての、担任のアイデアを取り入れ、内容の充実を図る。また、校内の全体に随時活動の様子を伝え、共通理解を図る。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・児童は、連携の取組を行うことによって中学校生活に対する期待感や見通しをもち、漠然とした不安が軽減するとともに、入学に対し前向きに考えようとする意識をもつことができた。
- ・教師は、連携先の教職員と何度も直接顔を合わせることで、互いのことがよく分かるようになり、連携がよりスムーズになった。
- ・何度も学校を訪問することで、中学校側はこれから入学してくる小学生の様子をつかむことができた。小学校側は、中学校の授業の様子を知り、見通しをもって学習指導に当たることができるほか、卒業生の成長した姿を直に見て小学校の取組を捉え直すことにつなげることができた。

(2) 課題

- ・中学校を訪問する活動のみになったので、今後は中学校の教師にも小学校にも来ていただき、相互交流ができるようにしていくことで一層充実した連携になると考える。
- ・計画していた活動ができなくなったのは残念だった。もっと活動の機会を増やし、多様な交流が実現できるようにしていきたい。

(3) 今後の「小中連携」の実践に向けて

- ・以前実施していた、外国語の出前授業や中学校教師による小学校の授業参観などを復活させ、活動の機会を増やしていきたい。
- ・「音楽のつどい」や「合唱発表会見学」、「学校祭見学」などの学校行事への参加にとどまらず内容のバリエーションを増やし、より充実した活動にしていきたい。
- ・事前の日程調整や細かい内容の打ち合わせなど、よりきめ細かい連携を互いに心がけ、一層充実した内容の小中連携となるように取り組んでいきたい。